

令和4年度 公共事業再評価調書

1. 事業説明シート

(区分) **国補** 県単

事業名	治水事業 [統合一級河川整備事業 (国補)]		事業箇所	南アルプス市 和泉	地区名	八系川	事業主体	山梨県
-----	------------------------	--	------	-----------	-----	-----	------	-----

計画期間	当初計画	現計画	変更計画
	H25~R4	—	H25~R9
総事業費	953 百万円	—	1,407 百万円

④特記事項 (関連事業概要等)
 ・既整備状況
 護岸工：横川合流点から上流約1,030m区間 道路橋：4橋 用地補償：一式
 期間：平成14年～平成24年 事業費9.5億円

(1) 事業の概要

①事業目的及び効果

南アルプス市を流れる八系川は、富士川に合流する一級河川横川の右支川で、流域面積約3.0km²、幹線流路延長約5.0kmの一級河川である。本河川はほぼ直線河道で、流域の地形は平坦であるが、釜無川と滝沢川とに挟まれた内水地区を流下し、計画流量40m³/s (30年確率) に対し、現況流下能力が著しく不足している箇所があり、過去における台風・集中豪雨時には、たびたび浸水被害 (内水被害) が生じていることから、早期の改修が望まれている。
 このことから、流下能力の拡大に重点をおいた河床掘削、河道拡幅を行うことで治水安全度の向上を図り、氾濫を防止する事が必要である。

□主要目標 ○洪水被害の防止
 改修目標流量に対する現況流下能力の割合：0.28<0.4以下※
 浸水被害又は水防活動の実績：有
 想定氾濫区域内における災害発生時の影響：有 ※評定基準値

□副次目標 ○なし

□副次効果 ○生態系空間の再生
 ○被災時の被害波及の防止

②事業概要

・河川改修 L=730m

③全体計画

		令和3年度まで	令和4年度 (評価実施年度)	令和5年度以降
現計画	工事内容	護岸工 橋梁工2橋 堰1基 測試一式 用地補償一式	護岸工	
	事業費	887 百万円	66 百万円	
変更計画	工事内容	護岸工 橋梁工1橋 測試一式 用地補償一式	堰1基	護岸工 橋梁工1橋
	事業費	874 百万円	63 百万円	470 百万円

※現計画欄は計画値、変更計画欄は前年度までは実績値、当年度以降は計画値を記入。

⑤これまでの評価状況

・なし

(2) 事業位置図等



2.評価シート（1）

（1）事業を巡る社会経済情勢等の変化

（今回の再評価で変更がある場合、変更事項を説明するために必要な内容）

①地域・住民の意向状況

- ・平成12年、13年、15年、16年に浸水被害が起きており地元より早期の河川改修が望まれている。
- ・平成28年、29年に、計画区間上流で洪水により護岸が被災を受けたこともあり、安全な川づくりが求められている。

②産業・経済情勢

- ・なし

③国等の方針

- ・なし

④上位計画・関連事業計画等

- ・「山梨県総合計画」（令和3年改定）
- ・「山梨県強靱化計画」（令和2年3月改定）
- ・「山梨県社会資本整備重点計画（第4次）」（令和3年3月改定）

⑤自然環境条件等

- ・八系川に生息する生物の生息環境の創出

⑥その他

- ・なし

（2）評価時点の費用対効果分析

項目		着手時点		変更計画時点	
総事業費		953	百万円	1407	百万円
工期		H25~R4		H25~R9	
評価基準年		H24		R4	
経済 効 率 性	費用	954	百万円	1,489	百万円
	建設費	784	百万円	1,365	百万円
	維持管理費	170	百万円	124	百万円
	その他(百万円		百万円
	便益	2,754	百万円	6,685	百万円
	一般資産被害防止額	1,005	百万円	2,599	百万円
	公共土木施設等被害防止額	1,598	百万円	3,499	百万円
	その他※	151	百万円	587	百万円
					百万円
		B/C	2.9		4.5

費用便益分析マニュアルにより算出 採択基準値1.0以上

※その他は、間接被害防止便益

（3）これまでの計画変更等の概要

- ・なし

評価シート(2)

(4) 事業進捗状況及び見込み

①進捗率

別表のとおり。

R4年度進捗率(現計画)100%→(実績)98%→(変更計画)67%

②進捗率実績が計画と相違している理由

堰施工箇所において軟弱層が確認されたことにより、当初の施工計画では施工ができないことが判明した。施工計画検討の結果、堰本体及び上下流の各翼壁の施工にあたり、仮設土留工の増工が必要となったため、堰の工事進捗が計画よりも遅れ、また工事費用が増える結果となった。

③総事業費の変更内容

変更工種等	事業費増減	変更理由
堰等の仮設工	386百万円 増減	軟弱層が確認されたことから、堰の設置にかかる仮設工の増工及び橋梁等の施工計画見直しが必要となったため
橋梁下部工	68百万円 増減	軟弱層が確認されたことから、杭基礎が必要となったため(2橋分)
合計	454 百万円	

④事業期間の変更理由及び進捗予定

堰の工事にかかる仮設工の増工が必要になったことに伴い事業進捗が遅れが生じたこと、また、今後施工する橋梁や堰附帯構造物の施工にあたって、同様の施工計画の見直しが必要となることから、事業期間を5年延長し令和9年の完了を予定している。

⑤今後の事業執行における留意点

なし

(5) 環境負荷等への配慮

捨石や埋戻し等は現地材を利用し、植生については在来種が生育するよう環境に配慮した河川改修を行う。

(6) コスト縮減の可能性

なし

(7) 代替案立案の可能性

なし

(8) 所管部の今後の方針 **継続・見直し継続**・その他()

(理由)

河川の氾濫による災害を防止するため、事業費及び事業期間を延長し、令和9年度の完了を予定している。

○別表-進捗率(事業費ベース)

算出方法：【上段】現計画の計画事業費/総事業費×100 【中段】現計画の実績事業費/総事業費×100 【下段】変更計画の計画事業費/総事業費×100

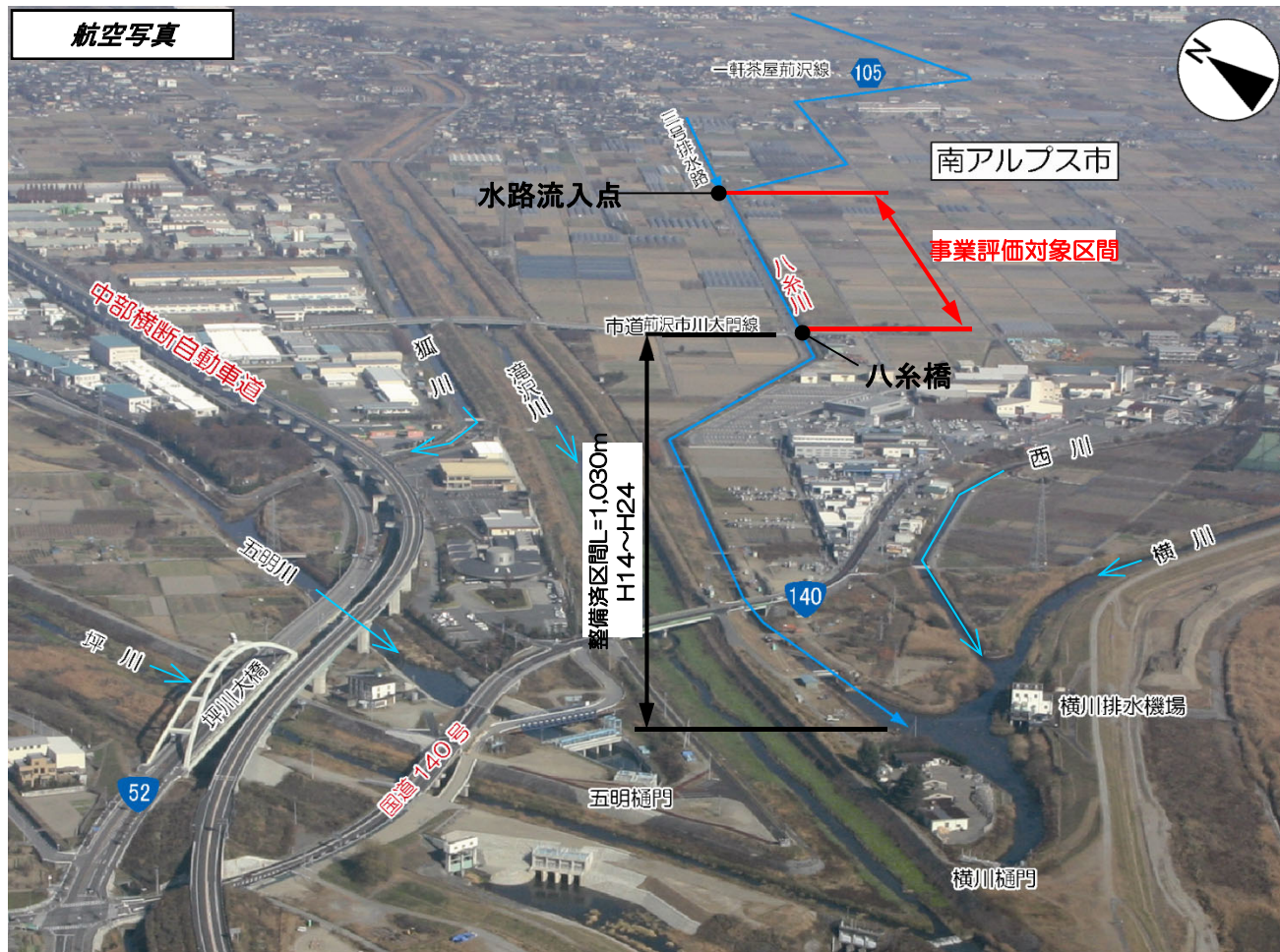
単位：%

	年度	*H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	*R4	R5	R6	R7	R8	R9
現	計画	5	15	22	29	40	47	53	86	93	100					
	実績	2	15	26	36	45	57	64	80	92	98					
	変更計画										67	74	80	89	94	100

*事業着手年度又は評価年度

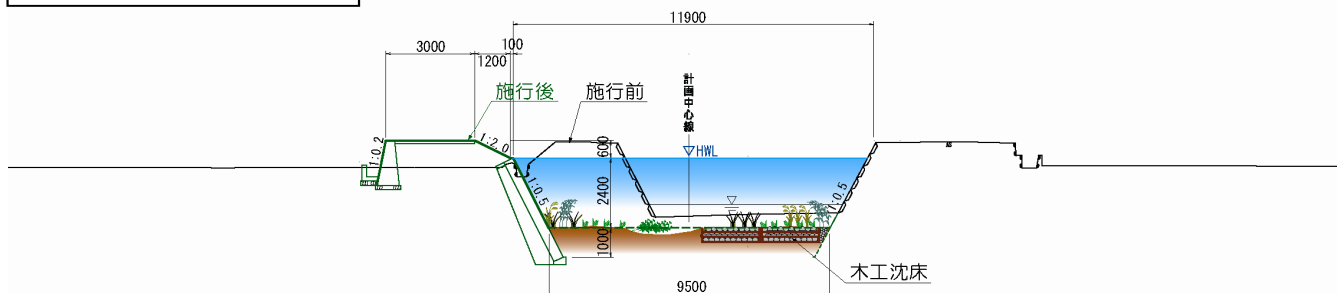
*R4年度の実績は見込み

3. 添付資料シート (1)

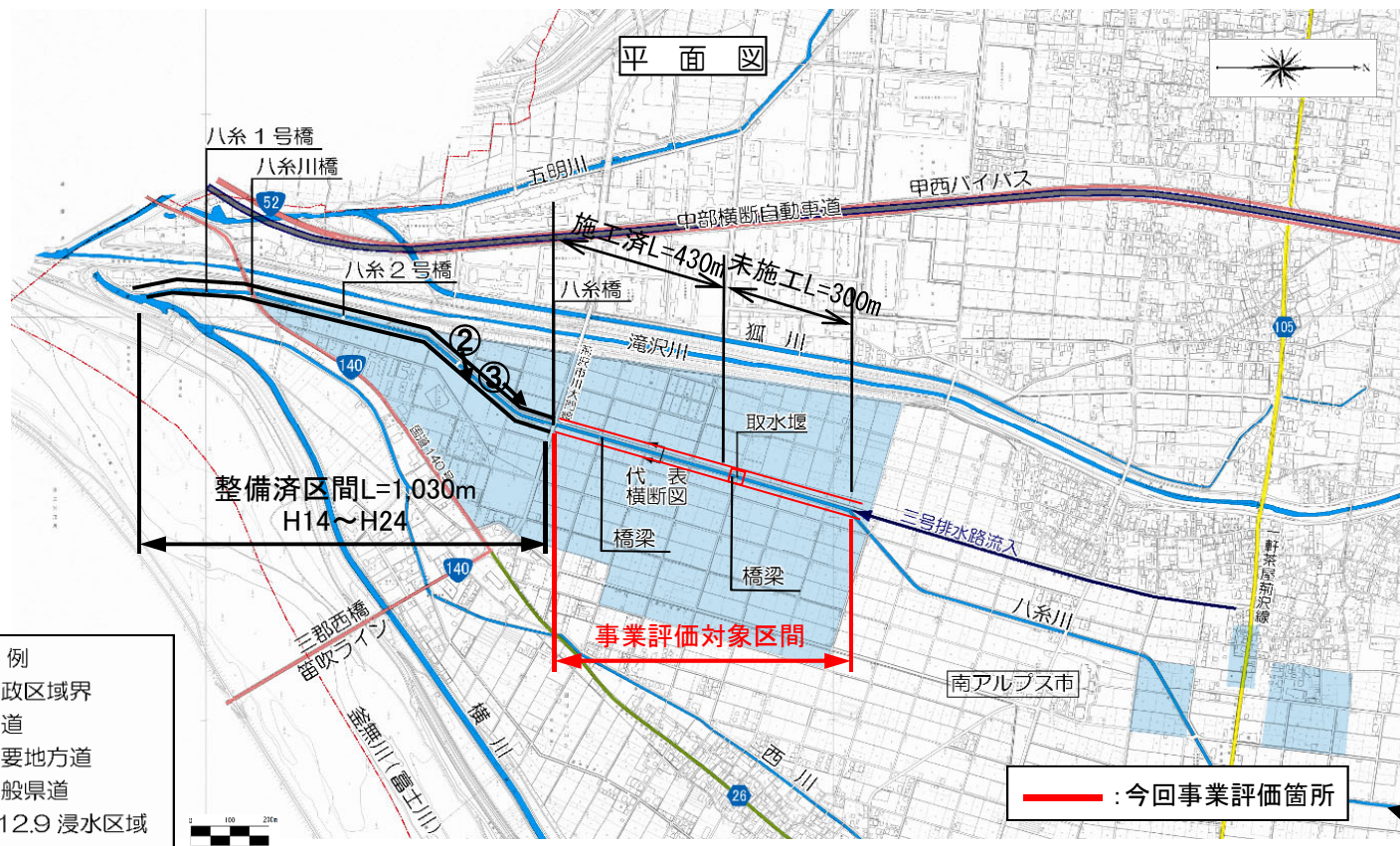


八系橋上流区間代表横断図

既設利用区間



3. 添付資料シート (2)



写真① 平成28年台風16号による被災状況写真



写真② 平成12年9月12日出水状況写真



写真③ 平成12年9月12日 出水状況写真



3. 添付資料シート (3)



▲堰の施工箇所における地盤及び湧水の状況
 (軟弱地盤かつ湧水の影響により掘削面が崩壊。当初計画したオープン掘削では施工困難な状況が確認された)

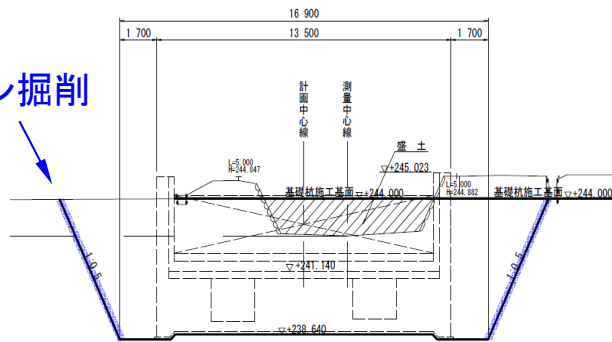


▲堰本体施工時の鋼矢板等による仮設土留工の施工状況
 (仮設土留工による施工方法に変更し、堰の施工が可能となった。)

当初計画

取水堰断面図

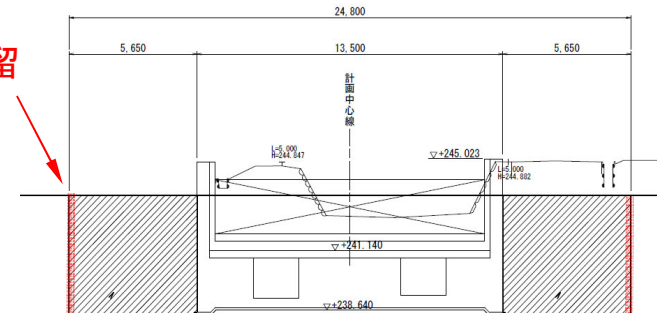
オープン掘削



変更計画

取水堰断面図

仮設土留

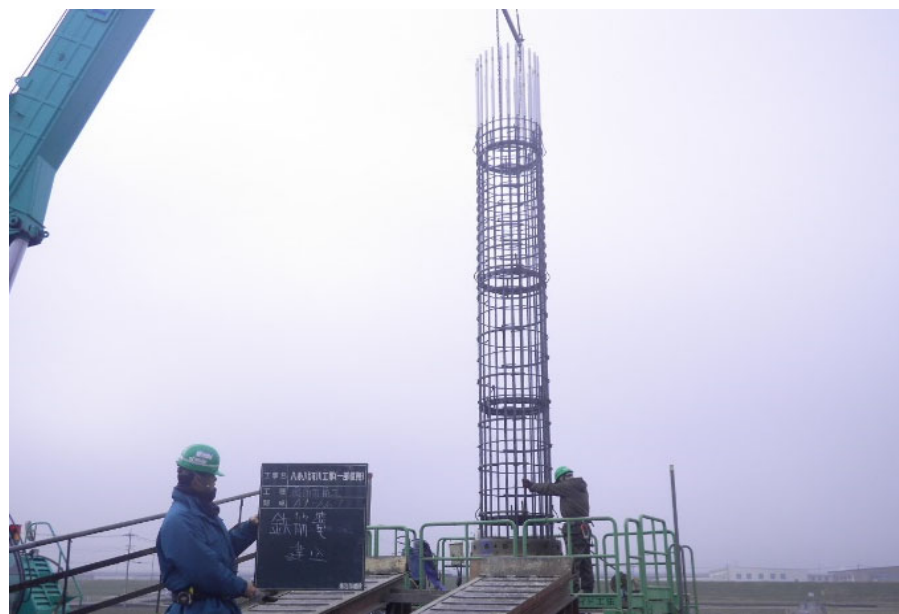
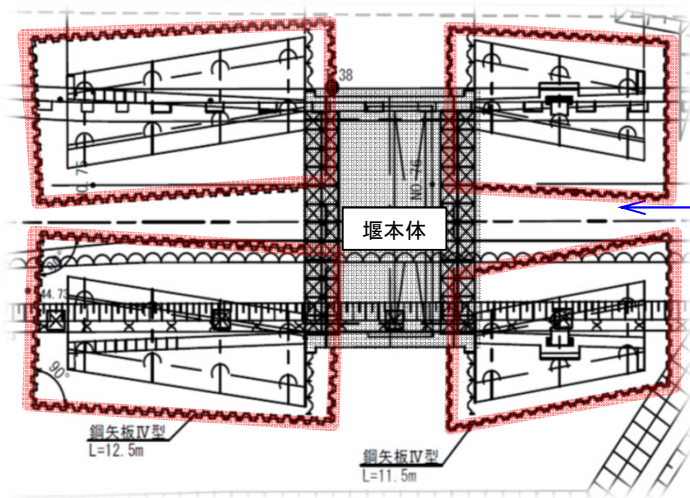


3. 添付資料シート (4)



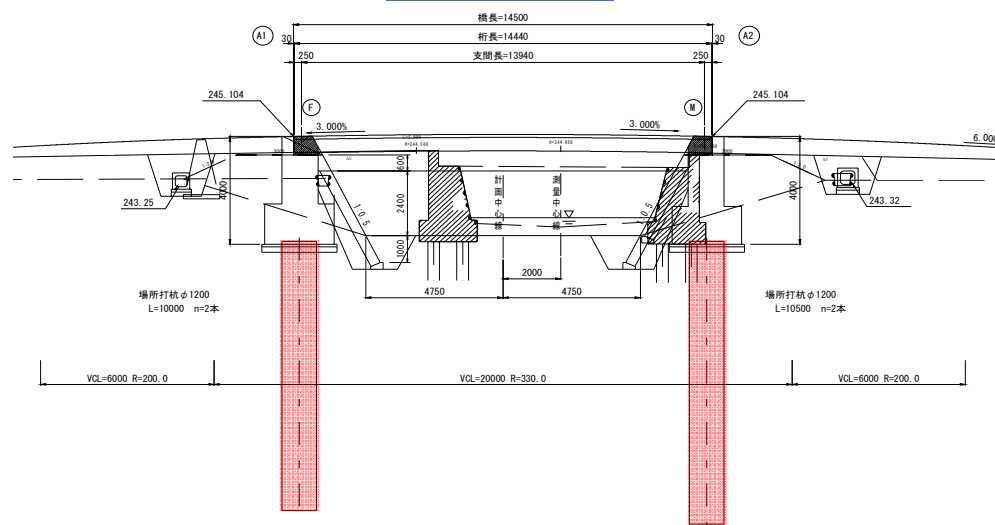
▲翼壁工施工時の鋼矢板等による仮設土留工の施工状況
(オープン掘削から仮設土留工による施工方法に変更し、翼壁工の施工が可能となった。)

平面図
(堰本体、翼壁工)



▲橋梁下部工における杭基礎施工状況
(橋梁下部における軟弱地盤に対応するため、当初の直接基礎による計画を、杭基礎による計画に変更する必要が生じた。)

橋梁側面図



4.年度別事業費内訳表（変更計画の内容）

年度	変更事業費 (千円)	事業概要	進捗率 (%)
H25	18,000	橋梁設計1橋 地質調査一式	1.9
H26	128,000	堰設計1基 用地補償一式 護岸工	15.3
H27	102,000	橋梁工1橋	26.0
H28	99,000	護岸工	36.4
H29	86,000	護岸工	45.4
H30	107,000	護岸工	56.7
R1	72,000	堰本体工1基	64.2
R2	152,000	仮設工設計一式 翼壁工	80.2
R3	110,000	翼壁工	91.7
R4	63,000	翼壁工	66.6
R5	110,000	翼壁工	74.4
R6	80,000	堰付帯工一式	80.1
R7	120,000	橋梁工1橋	88.6
R8	80,000	護岸工	94.3
R9	80,000	護岸工	100.0
合計	1,407,000		